

平成 26 年 8 月 21 日

## 博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 1127022024

氏 名 SUPRATMAN

論文審査員

主 査（教授） 加藤 真由美

副 査（教授） 城戸 照彦

副 査（教授） 表 志津子



論文題名 Physical activity and quality of life among community-dwelling older people in Indonesia: an intervention study

インドネシアの在宅高齢者の身体活動と生活の質：介入研究

論文審査結果

### 【論文内容の要旨】

身体活動は高齢者の健康状態を維持すること、また生活の質（quality of life, QOL）を保持することにも有用である。本研究の目的はインドネシアの在宅高齢者を対象に、介入研究を通して身体活動が身体的健康、精神的健康、社会的関連性や環境の QOL 領域の向上につながるかを明らかにすることであった。対象者は 60 歳以上の在宅高齢者 282 名であり、うち処置群は 132 名・64.4±3.9 歳（平均年齢±標準偏差）、対照群は 150 名・66.2±4.4 歳であった。対象者の割り付けは単純無作為化抽出により行い、処置群は指導者のもと身体活動プログラムに参加し、対照群はいかなる身体活動の指導を受けなかった。プログラムは 1 回約 50 分・週 2 回・20 週間実施され、内容は筋力強化、姿勢保持、リズム運動等であり、時にはフォークダンスも実施された。処置群では 18 名が脱落した。評価は World Health Organization の QOL 質問票（短縮版）が用いられた。

ベースラインにおいて、処置群と対照群の基本属性（性、年齢、喫煙、Body mass index 等）、ならびに身体的健康、精神的健康、社会的関連性、環境の QOL 領域、QOL 総合得点に差はなかった。介入後は、処置群では身体的健康（ $p=0.001$ ）、精神的健康（ $p=0.002$ ）、社会的関連性（ $p=0.001$ ）および QOL 総合得点（ $p=0.001$ ）に有意差があり、得点はいずれも増加した。一方、対照群ではいずれも有意差はみられなかった。身体活動と身体的健康や QOL 総合得点間に有意な単相関があり、身体活動は身体的健康度（ $p<0.05$ ）と QOL 総合得点（ $p<0.001$ ）に対して有意な正の予測因子であった。

### 【審査結果の要旨】

公開審査では、対象者の選定、アウトカム指標の選定、介入期間、季節による介入への影響、physical activity の位置付け等について質問がされ、いずれも適切に説明していた。なお、口述発表はよく準備されており、内容や構成は明瞭で適切であり、発表態度も良好であった。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。